

# 令和6年度 札幌市立厚別西小学校学校関係者評価書

## 1 本年度の重点目標

**学ぶことが楽しい！を実感できる学校** ～やってみよう！ ちょうせんしよう！～

## 2 本年度の経営方針（重点の具現化）

### <授業で楽しさの実感を目指すために>

#### 学ぶ力の育成

- ・自分で判断・工夫しながら進んで学習に取り組む
- ・新しい見方や考え方に気付く楽しさを感じながら仲間と学び合う
- ・「分かる」「できる」楽しさを感じながら基礎・基本となる力の定着を図る（朝学習・TT・少人数学習）
- ・前向きに粘り強く取り組む
- ・自分の思いを伝える（「話す・聞く・書く」力の育成

### <授業で楽しさの実感を目指すために>

#### 健やかな体の育成

- ・進んで体を動かす（遊びの奨励・跳び箱週間・サーキット週間）
- ・日常的に運動を継続する（縄跳び）
- ・運動の知識や興味・関心を高める（オリンピック・パラリンピック教育）
- ・健康で安全に生活できる実践力・判断力をつける（食指導・保健指導・安全指導）

### <特別活動で楽しさの実感を目指すために>

#### 豊かな心の育成

- ・集団活動の中でふれ合う楽しさを育む（学級活動・異学年交流・委員会・クラブ活動）
- ・「できる」「認められる」楽しさを実感し自己実現を目指す（体育発表会・学習発表会）
- ・自分らしい生き方と社会的自立を目指す（キャリア教育・道徳教育・異校種交流・人権教育・読書）

## 3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況	評価内容	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	学習の基盤となる学力の定着、自ら課題を見付け学びに向かう意欲の向上、活用力の伸長に向けた、指導・支援や工夫された授業づくりを行うことができていたか。 <b>(TT、体験学習、出前授業、少人数指導、beyondプロジェクト等)</b>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○チーム・ティーチングや少人数指導、beyond プロジェクトなどを通して、一人一人に丁寧に寄り、学習の充実を図った。</li> <li>○体験学習や幼稚園・中学校・養護学校との交流のほか、ゲストティーチャーを迎えての出前授業を充実に行い、多様な学びの場を設定したことで、更なる学習の意欲へとつなげることができた。</li> <li>○国語や算数を中心に、朝学習やタブレットでの学習及び宿題等の取組を行ってきたことで、基礎学力の定着を図るとともに学習習慣を身に付けさせることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力テストの結果から、課題を読み解く力や自分の考えを表現する力を更に身に付けさせるべく、TTや少人数指導の充実を図りながら、個にきめ細かく関わっていく。</li> <li>○学習のねらいに即した効果的な学びの場をつくり、より実感をもって学ぶことができる体験学習や出前授業などを、これからも充実させていく。子どもの将来につながる学びの工夫・改善に努める。</li> <li>○朝学習やタブレット学習の習慣化を図る。学校だけではなく家庭の中でも子どもが主体的に学びに向かうよう、家庭との連携を図り、学んだことを応用できる力を育てていく。</li> </ul>	A	A
	協働的な姿勢やよりよい考えを引き出す姿勢、ねばり強く考える姿勢を身に付け、見方や考え方を広げることができるような子どもや学年・学級集団を育むことができていたか。 <b>(学年・学級経営、日々の授業の工夫や改善、教職員による授業研究、研修等)</b>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノートやタブレットなどを活用しながら、学習のまとめや振り返りを大切にすることで、一人一人の考えを結び付けたり、価値付けたりして学びの定着を図ることができた。</li> <li>○児童アンケートでは、「進んで話し合いに参加したり、調べたりして、考えを深めたり、課題を解決したりすることを最後まであきらめずにできた」と答えた児童が91.5%、昨年度よりも3%ほど伸びた。</li> <li>○児童アンケートでは、「先生や友だちの話をよく聞くことができた」と答えた児童が94.3%で、今年度の前期よりもさらに1%増加している。子ども同士のコミュニケーションの拡がりや、仲間意識の高まりによるものと分析する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別最適な学びと協働的な学びをより効果的に実感できるソフト「ミライシード」を学習の中で活用することで、ともに学ぶ楽しさを味わいながら楽しい学びへとつなげていく。</li> <li>○仲間と学ぶ喜びを分かち合える学級風土を築き、一人一人のよさを認め合える人間関係を日々の授業の中で育てていく。頑張りや認め、価値付ける言葉掛けを教師自らが実践していく。</li> <li>○話の仕方・聞き方・聞く姿勢を大切に、他者意識を育てていく。仲間を大切にすることは、仲間から自分も大切にされることにつながっていることに気付かせていく。</li> </ul>	A	A
学ぶことが楽しい！を実感できる学校	挨拶や廊下歩行等の基本的な生活習慣の定着を図り、思いやりをもった子どもたちの良好な関係を育むための取組や指導・支援を行うことができていたか。 <b>(廊下歩行、あいさつの日、委員会、クラブ活動、たてわり活動、朝読書等)</b>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童アンケートでは、95.6%が「挨拶できた」と答えており、「よくできた」と答えた割合は今年度の前期よりもさらに2%伸びた。委員会や学級でのあいさつ運動のほか、本校卒業生である信濃中学校生徒と一緒にいった玄関先でのあいさつ運動も、とても高評価であった。</li> <li>○係や当番、委員会活動などに真面目に責任をもって取り組む姿が多く見られた。清掃活動でも、協力して行う姿が多くみられ、奉仕的な活動にも積極的であった。</li> <li>○忘れ物については、アンケート項目の中でも、低い評価であった。本校が掲げている「3つのお願い」や「まほうのかいわ」の合言葉を浸透させる取組を行い、年間を通して学校と家庭との連携を図っていく必要がある。</li> <li>○開放司書の協力や朝読書の定着、教師による絵本の読み聞かせなどにより、読書を楽しむ子が増えている。家庭の中でも読書の時間を設定していただくなど、家庭内での習慣化を推進していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎朝の玄関での出会いから始まり、元気にあいさつを交わす学校風土をつくっていく。挨拶を待つだけではなく、「自分から進んで」を意識していくことが大切である。よい挨拶を褒めるなど、子どもたちのやる気を引き出し、気持ちの良い一日が過ごせるように働きかけていく。</li> <li>○子どもたちとともに活動の内容を見直したりさらに発展させたりしながら、活気ある学校生活へとつなげていく。継続して楽しく取り組める活動を計画・遂行していく。</li> <li>○学校から家庭への啓発の仕方を工夫するとともに、家庭から子どもへ声掛けをして子どもに自覚をもたせるなど、「忘れ物ゼロ」に向けて、学校と家庭で連携し、子どもの「忘れ物ゼロ」習慣づくりを推進する必要がある。</li> <li>○「さっぽろっ子『学び』のススメ」について、年間を通して意識する機会を設け、家庭での時間の使い方を見つめ直すとともに、静かに読書に浸る時間を確保してもらおうなど、家庭との連携を図る。</li> </ul>	A	A
	休み時間に積極的に遊ぼうとする習慣を身に付けるための環境づくりや働きかけ、運動時間を保障した体育科の授業づくりによって、子どもたちの体力を向上させる取組を行うことができていたか。 <b>(体育発表会へ向けた取組、グラウンド・体育館遊びの奨励、なわとびの日、跳び箱週間、サーキット週間等)</b>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グラウンドでの鬼ごっこや登り棒、サッカー、ドッジボールのほか、雪山遊び、室内遊びなど、季節を問わず元気に遊ぶ子が多かった。学級や学年で全員遊びを週1回以上計画するなど、休み時間に体育館やグラウンドで学年問わず活発に過ごしていた。仲良く遊び、時間になったら切り替えて教室に戻るなど、ルールをよく守って遊ぶことができた。</li> <li>○なわとびの日や跳び箱週間、屋上を利用したサーキット週間、逆上がり補助器の常設のほか、今年度設置されたサッカーゴールの活用など、継続的に体を動かす場の設定を行った。特に縄跳びについては、技のスキルアップを図り、長く飛び続けられる子どもが増えた。</li> <li>○体育では、場づくりや人数の工夫のほか、主運動につながる準備活動を計画的に行いながら、実運動時間を保証し、充実した体育科の授業を実践することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常的に楽しく遊びながら、体力増進を推進していく。そのためには、今年度同様サッカーゴールの設置、ドッジボールコート常設、大谷グローブの活用奨励、なわとび運動の推進、スカッドボーイを使った投げき力の向上など、楽しみながら体力向上を目指した場の設定に努める。</li> <li>○コミュニティスクールが始まるにあたり、パートナー校共通の取組として、縄跳びでの体力づくりに取り組んでいきたいと考える。小中連携で継続的に長いスパンで体力作りを取り組み、基礎体力の向上を図っていく。</li> <li>○体育の授業を通して、ルールを守ることやチームワークの大切さを意識させるとともに、身体を動かす楽しさを感じながら身に付けてきた思考や判断力を、学校生活でも生かしていく。</li> </ul>	A	A
	自らの心身や生活状況を見つめ、健康的・衛生的に毎日の生活を送ろうとする意識や実践力を高めることができていたか。 <b>(感染症防止に向けた取組、保健指導・給食指導など)</b>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍以降も、手洗いが習慣化している。日常的にマスクをして過ごす子どもは以前から比べると減ったが、予防や咳エチケットのためにマスクを着用するなど、意識的に心身の健康に努めて過ごしている子が多い。</li> <li>○親学校である信濃小学校の栄養教諭と連携し、食の指導を通して、バランスのよい食事や食べ物に感謝する姿勢など、食に対する意識が高い。</li> <li>○養護教諭による保健指導により、改めて自分の成長を見つめ直すとともに、健康維持に向けた実践力や判断力が向上している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども自身が健康維持に努めるとともに、日々健康的な生活を営もうとする意欲を高める指導を学校として継続して行い、実践力を高めていくように関わっていく。</li> <li>○栄養教諭と連携を図りながら、食への興味関心を高めるとともに、給食を作り届けてくれる調理員の皆さんへの感謝の気持ちをもち、食べ物の命に感謝しながらフードロス削減させたりすることに努める。</li> <li>○身体測定や保健指導に関する学級活動、保健だよりなどを通して、子どもたちがいつも自分の体と心に関心をもち、健康維持を図りながら学校生活を送るように促していく。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価者によるご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な工夫のあるカリキュラムで、体験学習や各学校・施設との交流学习など、魅力ある授業づくりをしている。</li> <li>・学校内外で、とても気持ちのよい挨拶をする子どもが多く、PTA 活動の一環である交通安全あいさつ運動の保護者アンケートでも、子どもたちからの挨拶がよいとの回答をもらっている。</li> <li>・休み時間など元気に体を動かし、健康的な学校生活を送っていることがとてもよい。</li> </ul>					

<p style="text-align: center;">安心・安全な学校づくり</p>	<p>児童や保護者の悩みや困りに対する相談体制や、特別な教育的支援を必要としている子どもの教育の充実を図るための体制づくりはできていたか。 <b>(児童アンケートの取組と活用、スクールカウンセラーの活用、学びのサポーターや相談支援パートナーによる支援、個人懇談等)</b></p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p>○シャボテンログや学校独自のアンケート、悩みやいじめに関するアンケート、学校いじめアンケート等を通して、一人一人の悩みや困りに寄り添い、子どもや保護者と相談しながら解決に向けて取り組んだ。 ○学びの支援教育コーディネーターを中心に、校内学びの支援委員会を開催し、子どもの困りを職員間でもしっかりと情報共有し、学校全体の問題として、協力して取り組むことができた。 ○スクールカウンセラーの活用を推進し、子どもや保護者、教職員の悩みや困りに対して、専門的な見地から適切なサポートを行うことができた。</p> <p>○担任外や学びのサポーター、不登校の子どもに関わる相談支援パートナーのサポートにより、困りを抱えている子どもに対して安心して学習や生活へ向かえるように関わった。 ○スクール・ソーシャル・ワーカー(SSW)や特別支援教育巡回相談員には、学校が抱える子どもの問題に多く寄り添ってもらい、いただいたアドバイスを生かすことができた。</p>	<p>○シャボテンログを通して、また、日常的な子どもの観察を通して、毎日の体や心の変化を学校の教職員全体でキャッチし、子どもが抱えている問題を早期に解決へと導けるように、一人一人に丁寧に関わる。 ○子どもの見取りをしっかりと行うとともに、子ども理解や相談体制の充実を図る。悩みや困りに対する早期対応・早期対応に向けてさらに努力していく。</p> <p>○スクールカウンセラー吉川先生には、面談だけではなく校内の様子も見ていただき、教職員とは違う目線で感じたことなどを学校と共有していく。専門的な見地からいただいたアドバイスを支援に生かす。 ○不登校や不登校傾向の子どもに対し、担任と協力しながら相談支援パートナーによる支援を大いに活用していく。校内教育支援センターを整備し、必要に応じて子どもに沿った丁寧に対応を行っていく。 ○不登校やいじめ問題、学習支援等、子どもが抱える問題の解決に向けて話し合う子ども支援委員会を毎月開催する。SSWや巡回相談員にもご来校いただき、専門的な見地と客観的かつ冷静な判断を聞き、児童支援に努めていく。</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p style="text-align: center;">A</p>
<p style="text-align: center;">安心・安全な学校づくり</p>	<p>地域・保護者・関係機関と連携し、児童の安全・安心にかかわる業務の推進を計画的に行ったり、適切に対応したりすることができていたか。 <b>(安全訓練、交通安全指導、引取訓練、校区内巡視、不審者情報の発信など)</b></p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p>○安全訓練では、猛暑の時期を避けて保護者引取訓練を実施し、いざという時の対応の仕方について教職員の動きを確認するとともに、保護者にも周知することができた。 ○安全訓練では、川が近くにある学校という土地柄から、内水氾濫や洪水を想定した垂直避難訓練を実施した。札幌市防災教材「さっぽろそなえ箱」を活用して指導したことで、子どもにも分かりやすく、大切な訓練であることを自覚させることができた。 ○悪天候や不審者への対応として、教職員による校区内の巡視を実施した。下校時に子どもたちと一緒に歩きながら見守り活動を行った際には、子どもたちと危険箇所を一緒に確認するなど、日々の安全に努めることができた。 ○登下校時の安全への呼びかけや、不審者情報については、「すぐー」を使って保護者へ速やかに発信した。厚別区内や近隣校とも情報共有を図り、不審者への対応に努めた。 ○安全訓練後に教職員によるミニ研修会を実施し、教職員一人一人の動きを振り返りながら今後の訓練に生かすように努めた。1型糖尿病研修会を実施し、病気への理解と学校としての対応の仕方について研修を深めることができた。</p>	<p>○様々な災害や危険を想定しながら訓練を実施し、いざという時に冷静に対処できる力を身に付けていく。新年度は、やむを得ず冬にグラウンドに避難する訓練についても実施していく。 ○災害が起きた時には地域の方々の安全確保とともに地域の方の協力も必要不可欠なので、学校と町内会とのコラボによる訓練も検討していきたい。コミュニティスクールの開始に伴い、パートナー校と連携した訓練も計画していく。 ○教職員による校区内の見回りを引き続き行い、範囲を公園などにも広げ、放課後の子どもたちの安全指導にも力を入れていく。</p> <p>○今後も「すぐー」を積極的に活用し、子どもの安全に関わる情報をこまめにタイムリーに配信していく。町内会会長をはじめとする地域の方々にも、「すぐー」の登録を進め、地域にも広く配信していく。 ○緊急時における教職員の連携を大切に、的確に状況判断できる力を付けていく。安全や健康に関わる研修会を今後も開催し、スキルアップを図っていく。</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p style="text-align: center;">A</p>
<p style="text-align: center;">安心・安全な学校づくり</p>	<p>児童一人一人の違いとよさを認め合い、いじめを許さない学級・学年・学校の風土をつくることができていたか。 <b>(いじめや悩みに関するアンケートや学校いじめアンケートの取組と活用、保護者との連携、児童の見取りや対話など)</b></p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p>○教職員が子どもの個性を尊重しながら、一人一人のよさを認め合う仲間づくりを目指した。 ○いじめを絶対に許さない姿勢を強くもち、わずかな変化も見逃さないように、職員全員で子ども一人一人に関わった。いじめの未然防止、早期対応、早期対応を常に心掛け、職員間で情報共有しながらチームとして解決を図ることを大切にされた。 ○学校独自の生活アンケート(7月実施)や悩みやいじめに関するアンケート(11月実施)、学校いじめアンケート(2月実施)を実施し、些細なことでも丁寧に聞き取り、該当の子どもが納得できるように話し合い、解決へと進めていった。継続的に見守りが必要な子どもに対しても、頑張っているときは大きく褒めるなど「認められている」という思いをもたせるような声を掛け、自己肯定感を高める働きかけを行ってきた。 ○子どもや保護者の訴えを受けて、担任のみならず、養護教諭や担任外、教頭が対応した場面もあった。「誰にでも話をしてよい」という状況を常につくってきたことと迅速な対応により、保護者からも学校に対して信頼を寄せていただいている。保護者アンケート「子どもや保護者の話を聞き、悩みや困ったことについての相談体制ができています」では、「そう思う」と「おおむねそう思う」を合わせて97.8%の回答をいただいた。今後も保護者と連携しながら信頼される学校を目指す。</p>	<p>○一人一人が学級内で認められる学級づくりを、今後も各担任が意識をして行っていく。 ○子どもへの指導は、担任だけに任せるのではなく、学年や担任外、スクールカウンセラー、養護教諭なども関わり、学校全体で解決していくという姿勢をこれからも大切にしていく。小さなことであっても、早期に対応できるよう、常に教職員間での情報共有を図っていく。 ○悩みやいじめに関するアンケートや学校いじめアンケートの結果の丁寧な見取りや、子どもが相談しやすい関係や雰囲気づくり、心のケアに対する丁寧な働きかけなど、全ての教職員が子ども一人一人の心の状況を的確に把握したり、未然防止や早期発見につなげたりできるように、全職員が同じ方向を向いて解決する努力を続ける。</p> <p>○子どもや保護者の声に対して、常に聴く耳をもつ姿勢を大切にしていこう。寄り添って一緒になって考えていくことを第一に、チームとして迅速に対応していくようにこれからも努めていく。日々の学校生活の中で、人間尊重の教育や多様性に関わる教育活動の充実を図りながら、思いやりの心を育て、誰もが安全で安心して過ごしていける学校づくりを目指していく。</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p style="text-align: center;">A</p>
<p style="text-align: center;">信頼される学校づくり</p>	<p>子どもの様子や学校の取組などのきめ細かな情報発信や、地域・保護者の声を生かす教育活動を行うことができていたか。 <b>(学校だより、ホームページ、保護者アンケート、学習参観・懇談など)</b></p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p>○開校40周年記念児童集会や体育発表会、学習発表会といった行事、学習参観など、子どもたちの様子を保護者や地域の方に見てもらえる機会を多く設けることができた。ホームページの情報発信を充実させるため、更新頻度も増やしている。学年の鍵付きページについても、保護者にはこまめに確認していただき、好評である。保護者アンケート「学校や子どもの様子など、きめ細やかな情報の発信をしている」では、99.2%という昨年度よりも高い評価を得た。 ○学校だよりや給食だよりなどの配付を「すぐー」に添付する形でデータ配信するようにしたことで、用紙の大幅な削減につながっている。子ども向けに印刷して配付する時間割はあるが、学級便りなどで学校の様子を伝えてきた従来の方法をホームページ添付に切り替えたことで、ホームページがさらに充実し、閲覧回数も伸びた。</p>	<p>○これからも、子どもたちの様子や学校の取組をたくさん保護者・地域の方に足を運んで見ていただく機会を計画的に設定し、実施していく。また、年間を通して広く保護者ボランティアを募り、日々の学校の様子についても見てもらったり、一緒に楽しんでもらえたりするような機会を増やしていく。 ○これからも、学校としてのねらいをご理解いただけるよう、学校の取組について保護者や地域の方に向けて、ホームページで丁寧に発信していく。 ○コミュニティスクールの取組を進め、地域やパートナー校と連携を図りながら、地域に根差した活動を推進するとともに、ホームページ等で情報を発信していく。 ○ホームページや「すぐー」を大いに活用し、保護者や地域の方に喜んでいただける様々な情報発信を心掛けていく。気軽に足を運んでいただける学校づくりを目指していく。</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p style="text-align: center;">A</p>
<p style="text-align: center;">学校関係者 評価者 によるご意見</p>	<p>・子どもの悩みや困りに対しての相談体制づくりができており、関係機関とも連携を図りながらチームワークを大切に指導にあたっている。 ・「すぐー」による迅速な情報発信や、「シャボテンログ」によるタイムリーな子どもの声の聞き取りなど、アプリやタブレットを有効に活用しているのがよい。 ・体育発表会や学習発表会など、地域の方々に行事等を見ていただき、子どもたちの様子や学校の取組を知っていただく機会が増えたからこそ、例えば来賓の方にプログラムを配付するなど、取組が分かるものがあると、更に楽しみが共有できると思う。</p>					